

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)清越建て替え計画	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3	/5		ふつつ		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7	/5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5		ふつつ		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4点以上	ふつつ 3点以上	がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		3.3		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①ダブルスキンの採用による開口部の温熱環境の向上。 ②ライトシェルフの採用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦ダブルスキンによる高断熱化。 ⑧自然通風、ライトシェルフによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。 ⑫地下躯体部分における高炉セメントの採用。 ⑬不活性ガス(CO2)消火設備の導入。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		2.7	
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯制振装置の採用。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		3.0
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>⑲街並みに配慮し、木材等自然素材を活用した外装とした。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		2.8	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/⑶敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑵敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑶緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑷持続可能な森林から産出された木材/⑷温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑷静岡県産材の使用比率が0%。 ⑷外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	<p>Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ⑶ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑶ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑷ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑷ 温熱環境悪化の改善</p>			

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築(新築)2021年SDGs対応版

| 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)渚館建て替え計画	階数	地上10F
建設地	静岡県熱海市渚町11-11	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年7月15日
敷地面積	693 m ²	作成者	東急設計コンサルタント
建築面積	477 m ²	確認日	2023年7月24日
延床面積	3,685 m ²	確認者	東急設計コンサルタント



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能
Q1 室内環境
Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー
LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

生物環境 まちなみ 地域性

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項

総合	その他
熱海駅から南南西へ車で10分ほどの位置に鉄筋コンクリート造地上10階建てのホテルを計画した。これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	0
Q1 室内環境 開口部遮音性能T2以上	Q2 サービス性能 配管の更新必要間隔において主要な用途上位3種の2種以上にB以上を使用しEは不使用
Q3 室外環境(敷地内) 特になし	LR1 エネルギー [BEI][BEIm] ≤ 0.70
LR2 資源・マテリアル 部材の再利用可能性向上への取組みにおいて躯体と仕上が容易に分別可能(LGS+石膏ボード仕上)	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出率が83% 交通負荷抑制において適切な駐車台数の確保、荷捌き駐車場の確保 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策において「光害対策ガイドライン」の過半を満し「広告物照明の扱い」の

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される